



第84回

私のスケッチブック

「マリー・アントワネットが囚われた牢獄」

コンシエルジュリー・シテ島／パリ（フランス）



パリの歴史は、シテ島から始まると云われます。シテ島には現在もノートルダム大聖堂がパリの中心として位置し、司法省や市民病院があり、そして教会堂のサント・シャベルとコンシエルジュリーと云う世界遺産があります。サント・シャベルには13世紀に国王が集めた聖遺物が保管され、現在はステンドグラスの美しさに憧れた観光客で賑わっています。当然、ノートルダム大聖堂の「荊の冠」もこの教会に納められていました。また、観光客や一時滞在者がパリで急病に罹るとシテ島の市民病院に運び込まれ、旅行保険に加入している方達は概ね郊外のアメリカン・ホスピタルに行く事が多いです。

この絵は、パリ市庁舎方向からコンシエルジュリーを描いています。塔はシテ宮と云われる宮殿として建設されますが、シャルル5世の時代に放棄。その後、「番人の塔」としてコンシエルジュリーと呼ばれ、牢獄の

役割を果たしました。“コンシエルジュ”ってホテルの案内人？ マンションの管理人？ 私はほぼ同じ意味合いと理解し、要は「建物の門番」の様な意味合いでしょう。

1792年からこの牢獄に幽閉されていたマリー・アントワネットは、翌年コンコルド広場で断頭台の露と消えます。フランス革命で裁かれた多くの人達が、この牢獄を経て処刑されました。

現在宮殿は、司法省として使用され公開されています。昔は観光バスがシテ島に入っていましたが、道路混雑を理由に進입禁止になっているはず。私は、エッフェル塔付近から出ている観光船や、各駅停車の乗合船でセーヌ川から観るのが大好きです。描き始めの頃にノートルダム大聖堂の正面玄関を描こうとして、多くの観光客に囲まれて恥ずかしい思いをした懐かしい場所です。

延原 慎吾



1946年、岡山県生まれ。現在、東京都内在住。物流会社を経営するかわら欧州物流コンサルタントとして渡欧の際、歴史的建造物及び風景の美しさに魅せられて水彩画を始める。
2017年開催「第68回 全国カレンダー展」に9度目の入選を果たし、その実力を発揮する。
<http://www.urban.ne.jp/home/nobu36>

水彩画 延原

検索